

## 序

平素から市立泉佐野病院の運営に厚いご支援を頂き有難うございます。平成 21 年度の病院年報をお届けします。

平成 21 年度に入った 4 月 1 日新たに二人の脳神経外科専門医を確保して脳卒中専門医数は念願の 7 名となり、24 時間の脳卒中診療が可能になると安堵しましたが、メキシコから始まった豚インフルエンザ流行の日本上陸が気がかりでした。当院は高度安全病床を持つ第一種感染症指定医療機関でもあるため、危険性が疑われる感染症に限定して対応が求められるからです。それを受けて対策本部を院内に立ち上げました。新型インフルエンザと呼称が変更された感染症の日本上陸が確認されたのは 5 月 8 日でした。幸運にも危惧した重症例は少なかったのですが、他疾患の重症例で多く占められている当院に強力な感染力を持つインフルエンザが入り込むと極めて危険なことになります。そのため新型インフルエンザ重症例入院に備えて、一つの病棟全体を感染症隔離専用とせざるを得ませんでした。公立病院としての当然の役目ですが、長期にわたると医療サービスと医療収益の低下は只でさえ困難な経営に大きな打撃を与えます。

大阪府の公立病院改革ガイドラインに沿って、泉佐野市は平成 20 年度に改革プランを策定し、経営形態を見直して地方独立行政法人に移行する目標を平成 23 年度当初としました。また当院は実行ツールとして B S C（バランススコアカード）を採用しました。21 年度に入って病院各部署には B S C 作成、B S C 大会でのプレゼンテーション、B S C 実行途中のヒアリングなどお願いして、改革プラン実行に専念しました。一方では、医師のモチベーションを保つために、病院の筋向かいに新たに開校した大阪府立大学大学院動物科学教育研究センターとの交渉によって、基礎実験や動物を使った手術手技の研究・実習が可能となるように計りました。また、熊取町にある京都大学原子炉実験所での硼素中性子捕捉療法に参加して悪性腫瘍の先端的治療の臨床研究に加盟する機会を作りました。

川野淳前病院長が体調不良のため退職された後、院長代行を伊豆蔵正明副院長にお願いしていたのですが、院長に就任頂き 10 月 1 日就任祝賀会を致しました。11 月には韓国厚生省視察団の訪問を受けて、日本の医療制度の現状とそこでの経営の工夫を説明し、韓国での医療制度創設理念に私見を述べました。平成 10 年 3 月には大阪府と協議して隣接する泉州救命救急センターと数年後に合併してダイナミックな地域救急医療を実現する計画を検討しました。

変革途上の自治体病院ですが、地域での中核的役割を果たすべく前進を続けたいと存じます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう切にお願い申し上げます。

泉佐野市病院事業管理者

種子田 護